



平成20年7月28日
文部科学省
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

国際物理オリンピック参加生徒の成績について

文部科学省では、(独)科学技術振興機構を通じて、国際的な科学技術コンテストに参加する若者を支援する事業を実施しておりますが、このたび、ハノイ(ベトナム)で開催された「第39回国際物理オリンピック」に参加した生徒が、金メダル等を獲得したとの連絡を受けましたので、報告いたします。

- 受賞状況 : 金メダル1名、銀メダル1名、銅メダル1名
- 参加者 : 5名の高校生(日本からは3回目の参加)
- 受賞者詳細 :
 - 金メダル ^{むらした}村下 ^{ゆうと}湧音 さん 灘高等学校(兵庫県) 3年
[2年前から参加し、2007年金メダルを獲得]
 - 銀メダル ^{まつもと}松元 ^{えいいち}叡一 さん 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3年
[2007年の国際情報オリンピックにも参加し、銅メダルを獲得]
 - 銅メダル ^{よしだ}吉田 ^{しゅうへい}周平 さん 広島大学附属福山高等学校(広島県) 3年
- 参加国数/人数 : 82カ国・地域 / 370名
- 場所/期間 : ハノイ(ベトナム)
/平成20年7月20日~29日(現地時間)
- 派遣機関 : 物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

(お問い合わせ)

文部科学省科学技術・学術政策局基盤政策課 佐々木、石橋、西田、坂井
電話 : 03-6734-4191 (直通)
03-5253-4111 (内線3881, 4192, 4193, 3890)
物理チャレンジ・オリンピック日本委員会事務局
(日本科学技術振興財団) 谷本
電話 : 03-3212-8518

◆日本代表団の日程

7月	19日(土)	結団式
	20日(日)	成田発・ベトナム着・大会登録
	21日(月)	開会式・エキスカーション
	22日(火)	理論問題試験
	23日(水)	エキスカーション
	24日(木)	実験問題試験・エキスカーション
	25日(金)	エキスカーション
	26日(土)	エキスカーション
	27日(日)	フリータイム
	28日(月)	閉会式・フェアウェルパーティー
	29日(火)	ベトナム発
	30日(水)	成田着・文部科学省帰国報告

◆日本代表の出身地

赤堀 将太郎	京都市左京区
松久 勝彦	愛知県一宮市
松元 叡一	東京都新宿区
村下 湧音	広島県広島市
吉田 周平	広島県福山市

◆派遣生徒及び同行役員のコメント

派遣生徒のコメント

村下 湧音さん 灘高等学校(兵庫県) 3年

僕にとって3度目にして最後の国際物理オリンピックで金メダルをとり、日本チームに貢献できたことが大変嬉しいです。これからは後輩たちにこの経験を伝えて、日本チームに貢献していきたいです。後輩に金メダルを獲らせます。

松元 叡一さん 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3年

銀メダルを獲ることができて、とても嬉しいです。これからも頑張っていきたいと思います。

吉田 周平さん 広島大学附属福山高等学校(広島県) 3年

理論試験の出来が悪かったので、銅メダルの知らせを聞いてとても驚きました。本当に嬉しいです。

赤堀 将太郎さん 洛南高等学校(京都府) 3年

僕としてはチョット失敗です。やはりメダルを獲って帰りたかったです。

松久 勝彦さん 東海高等学校(愛知県) 3年

大会に参加できて大変良い経験ができました。もっと精進しないといけないことがわかったので、そうしたいと思います。

同行役員のコメント

日本代表団リーダー 原田 勲／岡山大学大学院自然科学研究科教授

今回の理論問題は日本チームにとって大変難しく苦戦したが、結果的に金メダル1、銀メダル1、銅メダル1、奨励賞2と「全員入賞」というすばらしい結果を得ることができ、リーダーとしてこれ以上の喜びはありません。がんばってくれた日本代表たちに敬意を表するとともに、私たちを支えてくださった文部科学省をはじめとする多くの方々に御礼を申し上げます。

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会委員長 北原 和夫／国際基督教大学教授

理論問題が新しい傾向だったので、選手は苦戦をしたように思います。聞いてみると、他の国の選手も同じように苦戦していたようです。しかし、(オリンピックだけでなく)どのような課題にも挑戦できる基礎的な論理力、持久力、表現力を鍛えることが、教育の基本であるとの思いを新たにしました。選手諸君、よく頑張ってくれました。

◆今回のオリンピックで出された試験問題

理論問題は、ベトナムの文化・世情を反映しており、「水力式米つき機に関する問題」、「排気ガスによる汚染の循環に関する問題」、そして純粋に物理の問題として「チェレンコフ放射に関する問題」が出された。また、実験問題は、結晶の凝固点の測定と太陽電池の発電に関する問題で、理論に比べ素直な問題といえるものであった。

◆エクスカージョンなど試験以外の大会プログラム

試験の合間には、ハーロンベイ（世界遺産）への遠足や水上の人形ショー等が組み込まれ、その間世界中の多くの友達との交流が行われた。日本チームは、白地図を使って多くの国の生徒と楽しく交流した。また、6日目にはノーベル賞受賞者のフリードマン教授の講演もあり、日本代表の生徒も自分の将来に思いをはせた。

◆過去の国際物理オリンピックにおける日本代表の成績

「第37回国際物理オリンピック」シンガポール大会

会 期： 2006年7月8日～17日 10日間

参加規模： 93カ国・地域、398名

成績結果： 銀メダル1個、銅メダル3個

「第38回国際物理オリンピック」イラン大会

会 期： 2007年7月13日～22日 10日間

参加規模： 69カ国・地域、327名

成績結果： 金メダル2個、銀メダル2個、銅メダル1個

◆「国際物理オリンピック (International Physics Olympiad)」について

(<http://www.jyu.fi/tdk/kastdk/olympiads/>)

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野にお

いて増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、ほかの国々からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国／都市は、2004年韓国／浦項、2005年スペイン／サラマンカ、2006年シンガポール、2007年イラン／イスファハン。2009年はメキシコ／メリダで開催される。

◆全国物理コンテスト「物理チャレンジ」について

(<http://www.phys-challenge.jp/>)

「物理チャレンジ」は、大学等に入学する前の青少年を対象として物理の持つ面白さと楽しさを体験してもらうことを目的とする全国規模のコンテストで、国際物理オリンピック日本代表選考を兼ねている。

「物理チャレンジ」は、ふたつの段階から構成されており、はじめの「第1チャレンジ」は、「理論問題コンテスト」と「実験課題レポート」からなる。理論問題コンテストは全国一斉の会場試験、実験課題レポートは自宅や学校で課題実験に取り組みそのレポートを郵送で提出する。二段階目の「第2チャレンジ」は、第1チャレンジの総合成績により選抜された100名が、夏休みに一堂に会する3泊4日の合宿形式のコンテスト。理論問題と実験問題についてそれぞれ5時間の試験を実施する。ここでは成績上位6名に金賞、続く12名に銀賞、続く12名に銅賞、さらに続く約20名に優良賞等を授与する。

第2チャレンジで優秀な成績をおさめた参加者から、翌年の国際物理オリンピック参加資格を持つ日本代表候補者を10～15名程度選出し、5ヶ月間にわたる通信添削、大学等を会場とした実験実習、冬休み及び春休みの合宿研修等の教育研修を実施したのち、最終選考を行い5名の日本代表を決定する。

なお、第2チャレンジは、国際物理オリンピックを模して合宿形式のメリットを活かし、コンテストばかりでなく第一線研究者との対話、最先端研究施設の見学、そして参加者同士ならびに参加者と実行委員（物理学研究者）との交流を深める機会なども織り込んであり、物理に興味を持つ若者にとって充実した4日間となる構成としている。

◆参考資料に関するお問い合わせ先◆

ホームページ <http://www.phys-challenge.jp/>

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会 事務局

財団法人日本科学技術振興財団 振興事業部 / 谷本

TEL 03-3212-8518 / FAX 03-3212-7790